

平成28年度 高齢社会フォーラム in 東京 2016年7月20日(水) 3
政府の取組

「高齢社会対策大綱」(平成24年9月7日閣議決定)の概要

1. 大綱策定の目的

平均寿命の延伸や、戦後生まれの人口規模の大きな世代が65歳となり始めたこと等により、世界のどの国もこれまで経験したことのない超高齢社会を迎えていること等を踏まえ、高齢社会対策基本法第6条の規定に基づき、政府が推進すべき基本的かつ総合的な高齢社会対策の指針として、この大綱を定める。

2. 基本的考え方

- ①「高齢者」の捉え方の意識改革
- ②老後の安心を確保するための社会保障制度の確立
- ③高齢者の意欲と能力の活用
- ④地域力の強化と安定的な地域社会の実現
- ⑤安全・安心な生活環境の実現
- ⑥若年期からの「人生90年時代」への備えと世代循環の実現

3. 分野別の基本的施策

上記の基本的考え方を踏まえ、6つの分野別の基本的施策に関する中期にわたる指針を定め、これに沿って施策の展開を図る。

- ①就業・年金等分野：(1)全員参加型社会の実現のための高齢者の雇用・就業対策の推進、(2)勤労者の生涯を通じた能力の充て、(3)公的年金制度の安定的運営、(4)自助努力による高齢期の所得確保への支援
- ②健康・介護・医療等分野：(1)健康づくりの総合的推進、(2)介護保険制度の着実な実施、(3)介護サービスの充実、(4)高齢者医療制度の改革、(5)住民等を中心とした地域の支え合いの仕組みづくりの促進
- ③社会参加・学習等分野：(1)社会参加活動の促進、(2)学習活動の促進
- ④生活環境等分野：(1)豊かで安定した住生活の確保、(2)ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの総合的推進、(3)交通安全の確保と犯罪、災害等からの保護、(4)快適で活力に満ちた生活環境の形成
- ⑤高齢社会に対応した市場の活性化と調査研究推進：(1)高齢者向け市場の開拓と活性化、(2)超高齢社会に対応するための調査研究等の推進と基盤整備
- ⑥全世代が参画する超高齢社会に対応した基盤構築：(1)全員参加型社会の推進

4. 推進体制等

(数値目標の設定)

一本大綱を実効性のあるものとするため、各分野において「数値目標」を設定し、施策の着実な推進を図る。

数値目標設定項目：

- ①就業・年金等分野
60～64歳就業率、年次有給休暇取得率等
- ②健康・介護・医療等分野
介護サービス利用者数、介護職員数等
- ③社会参加・学習等分野
「新しい公共」への参加割合の拡大等
- ④生活環境等分野
高齢者人口に対する高齢者向け住宅の割合等
- ⑤高齢社会に対応した市場の活性化と調査研究推進
健康関連サービス産業と雇用の創出
- ⑥全世代が参画する超高齢社会に対応した基盤構築
25歳～44歳の女性就業率、若者フリーターの数等

(大綱の見直し)

一経済社会情勢の変化等を踏まえておおむね5年を目途に必要があると認めるときに、見直しを行う。

「安心につながる社会保障」(介護離職ゼロ)の実現に向けた主な取組

【現状】

サービス・人材

将来の需要増が見込まれる中、介護サービスが足りない

働き方

介護サービスを利用するにあたって、家族の柔軟な働き方のための支援が足りない

家族への相談・支援

サービスや制度に関する情報が足りない

【課題】

高齢者の増加に対応した、介護サービスの確保が必要

介護サービスを支える介護人材の確保が必要

介護休業・介護休暇が取得しやすい職場環境の整備が必要

働く家族が介護等に関する情報を得やすくするとともに、相談窓口の充実が必要

【対策の方向性】

在宅・施設サービスの整備の充実・加速化

- 都市部を中心とした在宅・施設サービスの整備の加速化、規制緩和
- ・介護を理由とする離職者のうち、サービス不足によるやむを得ない離職ゼロを目指し、2020年代初頭までに現在見込んでいる増分に比べ、約6万人分の在宅・施設サービスを前倒し、上乗せ整備

介護サービスを支える介護人材の確保

- 上記の整備前倒しに伴い、介護人材を追加確保
- ・再就職支援
- ・学生の増加、定着支援
- ・ハローワークにおけるマッチング機能の強化
- ・雇用管理改善
- 介護者の負担軽減に資する生産性向上
- ・介護ロボットの効果的な活用

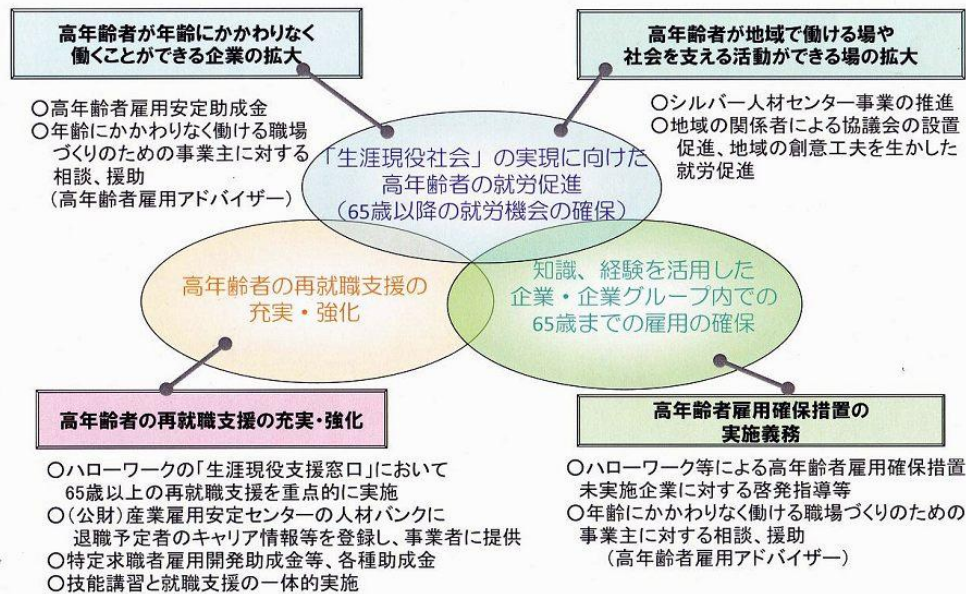
介護サービスを活用するための家族の柔軟な働き方の確保

- 介護休業制度の見直し、給付率引き上げに向けた取組
- 両立支援モデルの普及
- 長時間労働の是正やフレックスタイム制度の見直し等

家族への相談・支援

- 地域包括支援センターや労働局における情報提供・相談強化

平成28年度の高年齢者雇用就業対策の体系



今後の高年齢者雇用対策の充実

企業における雇用確保

- 企業における65歳までの雇用確保措置の徹底
- 高年齢者の働きやすい環境の整備を行う事業主に対する助成の拡充
- 65歳以上の高年齢者を雇い入れた場合の助成を拡充

中高年齢者の再就職支援

- 65歳以降に新たに雇用された者に対して雇用保険を適用
- 65歳以上の高年齢者に対する再就職支援を重点的に行う「生涯現役支援窓口」を主要ハローワークに設置
- 「高年齢退職予定者キャリア人材バンク」を創設
- 65歳を超えて働ける企業への移籍や起業により中高年齢者の雇用機会を創出する場合の助成を創設

地域における多様な雇用就業機会の確保

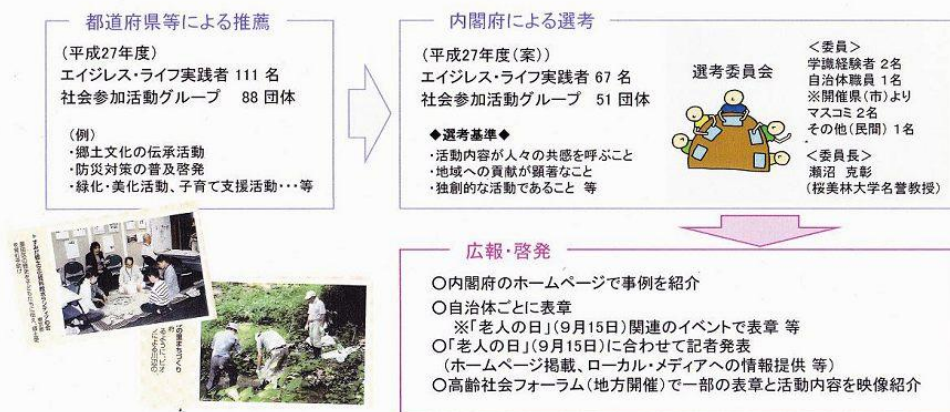
- 地域において高年齢者の雇用就業機会の確保・提供を図るため、自治体と関係機関からなる協議会を設置するとともに、同協議会による高年齢者の就業機会の掘り起こし等の事業を実施
- シルバー人材センターの就業時間の要件を緩和(週20時間→週40時間)できる仕組みを創設

先進的な取組事例

「エイジレス・ライフ実践事例及び社会参加活動事例」紹介事業

我が国では、平均寿命が男性で80歳、女性で86歳となり、高齢期においても、地域や人とのつながりをもちながら充実した生活を送ることは、すべての人にとって重要な課題となっている。

このため、既に高齢期を迎え、又はこれから迎えようとする世代の高齢期における生き方の参考に供するため、自治体と連携して、エイジレス・ライフ(年齢にとらわれず自由で生き生きとした生活を送ること)を実践している者及び地域において社会参加活動を積極的に行っているグループ等の活動事例を収集し、広く紹介していく。



事例

平成27年度 社会参加活動事例(抜粋)

かわげ

河芸子育てサロン 三重県(津市)

毎週火曜日・木曜日の午前中、河芸ほほえみセンター交流室を利用し子育て支援の活動を行っている。自らの子育ての経験を生かして、育児中の若いお母さんの孤立防止や情報の交換の場として、また祖父母と接する機会の少ない核家族との世代間交流などを通して、若いお母さんのストレス防止、孤立防止・虐待防止・安心して子育てができる環境や就園前の子ども達のふれあいの場や見守り等を提供し、子育て家族の憩いの場として親しまれており、地域に根ざした活動をされている。

さいか

雑賀地区認知症見守りの会「ほっとさいか」 島根県(松江市)

「認知症になってもだいじょうぶなまちづくり」をテーマに、住民が主体となって認知症についての研修会、未帰宅事案発生時の緊急連絡網づくりと模擬訓練、ケアマネジャーと地域住民の情報交換会など、意欲的に取り組んでいる。住民主体性の素地のもと、認知症の方や家族の問題について地域包括支援センターやケアマネジャー及び介護サービス事業所と近隣住民であるほっとさいかのメンバーが集まり、「地域ケア会議」も開催されている。

かみどのみらいかいぎ

NPO法人上殿未来会議 (一財)日本郵政退職者連盟

平成21年12月、上殿小学校存続対策協議会を立ち上げ、上殿地域全戸の空き家調査、アンケート調査等を実施したが、定住対策の手続きや契約、家主との交渉は不可能とわかり「NPO法人 上殿未来会議(平成25年3月15日認可 初代理事長 矢立洋士)を設立した。子供連れの若者夫婦で移住者が望めば引っ越しも手伝い、就職の世話等も行っている。(活動開始から12世帯、50名が移住)

事例

平成27年度 社会参加活動事例(抜粋)

がっしょうざ

合唱座 福井県(福井市)

家庭内暴力や自殺行為がなくなるよう、実際の体験を取り入れた命の尊さを伝える自作の様々な仏法寸劇を披露している。劇で地域の子供から高齢者までを元気づけながら、つらいことを乗り越えて生きる大切さや人間としてどうあるべきか考える機会を提供している。また、演目に漫才を取り入れ、福井のよさを伝えるため特産や名所、食べ物などを取り入れたり、劇に児童の活動グループの合唱を取り入れて世代間交流に努めるなど精力的に活動している。

かわらめいじゅかい

河原明寿 京都府(京田辺市)

高齢者が若い親たちに積極的に地域の良さを伝え、世代間交流で地域力をアップさせている。特に毎年夏休みに行われているラジオ体操では老人会と子ども達や保護者が参加し、朝の挨拶を交わすことによって顔見知りになり、地域の安心・安全な町づくりにつながっている。クリスマス会や地域の清掃活動をはじめ、神社の祭り行事など、自分たちの住む地域をより良くしていこうとする地域みんなの思いが一つになっている。

しゅうぼうがくしゃ

周望学舎シルバーバンク 福岡県(北九州市)

周望学舎第一回修了者の有志の方々が、学舎で学んだことや自分が持っている知識、技能、労力を社会奉仕に活用することは出来ないかと誘い合って結成。「シルバーバンク」とは、自分に出来ること(知識や技能)を登録して、それを必要とする個人、団体にニーズにあった技術、能力、労力を提供していく仕組み。※銀行の預金と払い出しの仕組みに似ていることから命名。

平成28年版高齢社会白書における事例紹介

「100歳まで働ける職場で多世代がつながる」 さいたま市「BABAラボ」

- 定年後、地域で自分の得意なことやこれまでの経験を活かし、なおかつ歩いて行ける距離で、お小遣い程度でも稼げる所があれば、という思いから作られた。
- おじいちゃん・おばあちゃんが孫の面倒をみるときに使いやすい、使ってみたいと思わせるグッズを、地域の高齢者たちの経験と知恵を生かして開発している。
- 高齢者だけでなく、30～40代の子育て中のメンバーも多い。工房に子供や孫を連れてきても問題なく、作業を細分化し、あえて「非効率」にすることで、いろいろな年代の方が参加できるようにしている。
- 両親が遠くに住んでいる、核家族の若い夫婦が、自分の子供に「おばあちゃん」の温かさを経験させてあげたい、また、年を重ねても生き生きとしている姿を、これから年を重ねていく自分の希望にしたい、という思いから集まっている。



